

5万分の1地質図幅「鳥海山及び吹浦」説明書の正誤表

① p.79

誤

法体溶岩（Ⅱc₂）

林（1984a）の法体溶岩及び赤沢川下部溶岩を合わせたものに相当する。鳥海山地域中央部、下玉田川と赤沢川間の台地を構成する安山岩溶岩流である。新第三系及び扇状地堆積物を覆う。全落差約20mの法体の滝（第43図：下流から一の滝13m、二の滝2.4m、三の滝4.2m）は本溶岩からなる。本溶岩は1枚の溶岩流で、滝の北約800mまで達している。最下流部では比高50mの末端崖を形成し、下玉田川沿いで柱状節理が発達する。中流部での側端崖は比高100m以上である。溶岩原面が比較的良好に保存されている。玉田溪谷より上流の赤沢川の沖積低地及び法体の滝北西の沖積低地は本溶岩のせき止めにより形成された。岩質は角閃石紫蘇輝石かんらん石普通輝石安山岩である。

角閃石紫蘇輝石かんらん石普通輝石安山岩（YS 325 / GSJ R 57100）

産地・産状：鳥海町、玉田溪谷法体の滝、一の滝上部。溶岩。

正

法体溶岩（Ⅱc₂）

林（1984a）の法体溶岩及び赤沢川下部溶岩を合わせたものに相当する。鳥海山地域中央部、下玉田川と赤沢川間の台地を構成する安山岩溶岩流である。新第三系及び扇状地堆積物を覆う。全落差約57mの法体の滝（第43図：上流から一の滝13m、二の滝2.4m、三の滝42m）は本溶岩からなる。本溶岩は1枚の溶岩流で、滝の北約800mまで達している。最下流部では比高50mの末端崖を形成し、下玉田川沿いで柱状節理が発達する。中流部での側端崖は比高100m以上である。溶岩原面が比較的良好に保存されている。玉田溪谷より上流の赤沢川の沖積低地及び法体の滝北西の沖積低地は本溶岩のせき止めにより形成された。岩質は角閃石紫蘇輝石かんらん石普通輝石安山岩である。

角閃石紫蘇輝石かんらん石普通輝石安山岩（YS 325 / GSJ R 57100）

産地・産状：鳥海町、玉田溪谷法体の滝、三の滝上部。溶岩。

② p.80

誤

第43図 法体溶岩にかかる法体の滝（一の滝）

滝の落差は13mとされる。ここで玉田溪谷をくり抜いた上玉田川は法体溶岩の側端崖から落下し、下玉田川と合流する

正

第43図 法体溶岩にかかる法体の滝（三の滝）

滝の落差は42mとされる。ここで玉田溪谷をくり抜いた子吉川は法体溶岩の側端崖から落下し、下玉田川と合流する